

生物多様性総合評価報告書案に用いたデータの引用文献リスト

データ	データ名	引用文献
1-①	土地利用の推移	国土交通省, 土地白書. 農林水産省, 森林資源現況調査、耕地及び作付面積、土地利用基盤整備基本調査.
1-②	陸域における生態系の規模等	国土交通省, 土地白書. 農林水産省, 森林資源現況調査.
1-③	陸水域・沿岸域における生態系の規模等	農林水産省, 耕地及び作付面積. 農林水産省, 土地利用基盤整備基本調査. 環境省, 自然環境保全基礎調査. 国土地理院, 湖沼湿原調査. 国土地理院, 国土面積調査.
2-①	狩猟者数の推移	林野庁, 鳥獣関係統計. 環境庁, 鳥獣関係統計. 環境省, 鳥獣関係統計.
3-①	湖沼・海域における全窒素濃度および全リン濃度の推移	環境省, 2007: 平成18年度公共用水域水質測定結果.
4-②	生物分類群ごとの絶滅危惧種の減少要因	環境省, 2002: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1(哺乳類). 環境庁, 2000: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—3(爬虫類・両生). 環境省, 2003: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—4(汽水・淡水魚). 環境庁, 2000: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8(植物I(維管束
4-④	維管束植物における年代別の絶滅種数	Fujita et al., 未発表. 環境省, 2007: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 植物 I 維管束植物.
5-①	主な保護地域の面積の推移	環境省資料. 林野庁資料. 国土交通省資料.
5-②	各生態系の保護地域カバー率	環境省業務資料(自然環境保全基礎調査等). 国土交通省, 国土数値情報.
6-①	「種指定天然記念物」と「国内希少野生動植物種」の指定	環境省資料. 文化庁資料.
6-②	都道府県版RL, RDBと希少種条例を作成・制定した都道府県数の推移	各都道府県の公表資料.
7-①	薪炭の生産量	総務省, 日本長期統計総覧. 総務省, 日本の長期統計系列.
7-③	耕作放棄地面積推移	農林水産省, 2003: 農業センサス累年統計書.
8-①	特定鳥獣保護管理計画の策定数の推移	環境省資料.
9-②	海外から輸入される「生きている動物」等の輸入量の推移	財務省貿易月表.
9-③	海外から輸入される「生きている動物」の近年の輸入数の推移	財務省貿易月表.
9-④	侵略的な外来生物の分布の拡大	国土交通省, 河川水辺の国勢調査. 金子陽春, 若林務: 1998, つり人ノベルズ. 環境省, 自然環境保全基礎調査. 環境省2007: 平成18年度自然環境保全基礎調査・種の多様性調査(アライグマ生息情報収集)業
10-①	主要汚染物質の検出割合経年推移(魚類)	環境省, 化学物質環境実態調査.
11-①	特定外来生物等の種類数	環境省資料
12-②	石西礁湖におけるサンゴ白化時の温度との関係	岡本ほか, 2007: 石西礁湖におけるサンゴ白化時の温度環境について水産海洋研究, 71(2), 112-121.
12-⑨	ソメイヨシノの開花日の変化と気温との関係	樋口ほか, 2009: 温暖化が生物季節、分布、個体数に与える影響, 地球環境, 14(2), 189-198.
13-①	生物多様性の認知度	環境省(2004), 新・生物多様性国家戦略の実施状況の点検結果(第2回) 内閣府大臣官房政府広報室, 平成21年6月: 環境問題に関する世論調査.
14-①	日本の環境分野におけるODA金額の推移と生物多様性	OECD/DAC資料 OECD/DAC・CRSオンラインデータベース
14-②	生物多様性の保全に関連する基金等へ日本の拠出割合	Conservation International 資料. FCPF資料. 世界銀行資料.

データ No.	データ名	引用文献
15-①	森林面積(天然林・人工林)の推移	林野庁資料
15-②	人工造林面積の推移	総務省統計局, 日本長期統計総覧. 農林水産省統計部, ポケット農林水産統計.
15-③	ニホンジカの分布変化と捕獲数の推移	環境省, 1978: 第2回自然環境保全基礎調査哺乳類分布調査. 環境省, 2003: 第6回自然環境保全基礎調査哺乳類分布調査.
16-①	森林の分断状況	林野庁, 2009, 森林資源調査データによる動態変化解析事業報告書.
17-②	「生きている地球指数」(LPI: Living Planet Index) 1978年に対する1997-2002年の鳥類の分布範囲の変化	Yamura Y., Amano T., Mitsuda Y., Taki H. and Okabe K 2009: Does land-use change affect biodiversity dynamics at macroecological scale? A case study of birds over the past 20 years in Japan, Animal Conservation, 12, 110-119.
19-①	図表 農地・草原の面積の推移	農林水産省, 耕地及び作付面積統計. 農林水産省, 2003: 林業センサス累計統計書(昭和35年~平成12年). 農林水産省, 土地利用基盤整備基本調査. 農林水産省, 農用地建設業務統計調査.
19-③	農薬・化学肥料の生産量の推移	財団法人農林水産業生産性向上会議, 日本農業基礎統計. 日本植物防疫協会, 農業要覧.
20-①	秋期の渡りにおける内陸性のシギ、チドリの個体数の	天野・神山 未発表
21-①	アワ、ヒエ、ソバ(雑穀類)の作付面積の推移	農林水産省, 作物統計. 農産業振興奨励会, 2006, 雑穀品種特性表改訂版. 東京都, 1966~2008: 東京都統計年鑑.
22-①	東京都特別区の土地利用の推移	国土交通省, 都市公園等整備現況調査. 建設省, 都市緑化年報. 国土交通省, 公園緑地関係資料. 社団法人日本公園緑地協会, 機関誌「公園緑地」. 東京都鳥類繁殖調査報告書(昭和48年~昭和53年).
23-①	東京都におけるヒバリの分布の変化	東京都鳥類繁殖状況調査報告書(平成5~9年度).
23-②	東京都におけるメジロの分布の変化	東京都鳥類繁殖状況調査報告書(平成5~9年度).
24-④	河床の低下及び河道外への土砂の搬出	国土交通省資料.
25-①	1900年以降のダムの竣工数及び、累積総貯水量の推	国土交通省: 平成17年度, 国土数値情報, ダムデータ.
25-②	一級河川及び主な二級河川におけ魚類の遡上可能	環境省, 1985: 第3回自然環境保全基礎調査, 河川調査. 環境省, 1998: 第5回自然環境保全基礎調査, 河川調査.
25-③	河川水際線の状況の推移	環境庁自然保護局, 1980: 第2回自然環境保全基礎調査河川調査報告書. 環境庁自然保護局, 1987: 第3回自然環境保全基礎調査河川調査報告書. 環境庁自然保護局, 2000: 第5回自然環境保全基礎調査河川調査報告書.
25-④	主な湖沼の湖岸の改変状	環境庁自然保護局, 1993: 第4回自然環境保全基礎調査湖沼調査報告書.
26-①	全国の湖沼におけるシャジクモの確認種数	笠井文絵, 2006: 絶滅危惧種藻類の生育調査, 国立環境研究所ニュース, 25巻5号. 国立環境研究所ホームページ: 冊子「しゃじくも」車軸藻類の保全をめざして.
26-①	全国の湖沼におけるシャジクモの確認種数	環境省, 2007: レッドリスト, 植物 II.
26-②	一級河川における外来種の確認種数	国土交通省, 2008: 河川水辺の国勢調査, 1・2・3巡目調査結果総括検討(河川版)(生物調査)報告.
27-①	浅海域の埋め立て面積の	国土地理院: 国土面積調査.
27-②	海砂利採取量の推移	経済産業省, 国土交通省: せとうちネット内資料, 砂利採取業務状況報告書集計表. 環境省: 第2回自然環境保全基礎調査. 環境省: 第4回自然環境保全基礎調査. 環境省: 第5回自然環境保全基礎調査. 環境省, 1978: 第2回自然環境保全基礎調査, サンゴ礁調査. 環境省, 1992: 第4回自然環境保全基礎調査, サンゴ礁調査.
27-④⑤⑥⑦⑧	沿岸生態系の規模の変化	環境省: 第2回自然環境保全基礎調査. 環境省: 第4回自然環境保全基礎調査. 環境省: 第5回自然環境保全基礎調査. 環境省, 1978: 第2回自然環境保全基礎調査, サンゴ礁調査. 環境省, 1992: 第4回自然環境保全基礎調査, サンゴ礁調査.
28-①	秋季の渡り時に日本を通過するシギ、チドリの個体数の	天野・神山 未発表
28-②	砂浜、干潟に生息する種の漁業資源の変動	農林水産省, 2005: 漁業・養殖業生産統計年報.
29-①	漁獲量と海洋食物連鎖指数(MTI)	水産庁: 海面漁業魚種別漁獲量累年統計(全国).
29-③	漁獲量の長期トレンド	水産庁: 海面漁業魚種別漁獲量累年統計(全国).
30-①	南西諸島における固有種率とその絶滅危惧種の割合	環境省, 1989: 緊急に保護を要する動植物の種の選定調査, 基礎資料, 島嶼群別分布表. 環境省自然環境局, 2006: 平成17年度琉球諸島世界遺産候補地の重要地域調査委託業務報告 環境省, 2007: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 哺乳類. 環境省, 2006: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 両性類. 環境省, 2006: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 爬虫類. 日本政府, 2010: 世界遺産一覧表記載推薦書 小笠原諸島.
30-②	小笠原諸島における固有種率とその絶滅危惧種の割合	環境省, 2007: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 陸産貝類. 環境省, 2007: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 昆虫類. 環境省, 2007: 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト, 植物 I 維管束植物.

データ以外の引用文献（暫定）

第 I 章 第 1 節 わが国の自然環境と生態系

Yamashina Institute for Ornithology (2002) Atlas of Japanese Migratory Birds from 1961 to 1995. Yamashina Institute for Ornithology, Chiba.

天野一葉 2006 干潟を利用する渡り鳥の現状 地球環境 11.215～226

氷見山幸夫.1992.日本の近代化と土地利用変化

環境省（編）2003 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック 4 汽水・淡水魚類.（財）自然環境研究センター

農林水産省.食料需給表

環境省（2002）新・生物多様性国家戦略. 第 2 章 現状分析, 第 2 節 世界における日本の生物多様性, 2 日本の生物多様性の特徴.

環境省（2002）新・生物多様性国家戦略. 第 2 章 現状分析, 第 2 節 世界における日本の生物多様性, 3 日本の自然環境特性と生物多様性,（1）生物多様性を支える気候と地形の特性.

環境省（2002）新・生物多様性国家戦略. 第 2 章 現状分析, 第 2 節 世界における日本の生物多様性, 3 日本の自然環境特性と生物多様性,（2）植生と生物相の概観.

環境省（2006）平成 17 年度琉球諸島世界遺産候補地の重要地域調査委託業務報告書.

環境省（2007）第 3 次生物多様性国家戦略. 第 1 部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた戦略, 第 2 章 生物多様性の現状と課題, 第 4 節 生物多様性の現状, 2 日本の

第 I 章 第 2 節 わが国の社会経済

資源エネルギー庁.総合エネルギー統計.

総務省.国勢調査

農林水産省.食料需給表

農林水産省.木材需給表

内閣府.国民経済計算

国立社会保障・人口問題研究所.2006.日本の将来推計人口（平成 18 年 12 月推計）

国土交通省.平成 20 年度国土交通白書

国土交通省総合政策局.建設投資推計及び建設投資見通し

第 II 章 第 4 節 地球温暖化の評価

IPCC の第 4 次評価報告書（2007）

Primack, R., Ibanez, I., Higuchi, H., S-D, Lee., Miller-Rushing, A. J., Wilson, A. M., and Silander, J. A. 2009. Spatial and interspecific variability in phenological responses

to warming temperatures. *Biological Conservation* 142:2569-2577

樋口広芳・小池重人・繁田真由美 2009 温暖化が生物季節、分布、個体数に与える影響
地球環境 Vol 14 189-198

第III章 第1節 森林生態系の評価

藤田和幸, 2005 : マツ材線虫病被害拡大への温暖化の影響, 森林総合研究所東北支所研究情報, 4(4), 1-6.

Rachel Hembery, Anna Jenkins, George White and Beatrix Richards 2007 *Illegal Logging Cut It Out! The UK's role in the trade in illegal timber and wood products*

由井 正敏, 関山 房兵, 根本 理, 小原 徳応, 田村 剛, 青山 一郎, 荒木田 直也 2005
北上高地におけるイヌワシ *Aquila chrysaetos* 個体群の繁殖成功率低下と植生変化の関係
日本鳥学会誌 54 67-78

由井 正敏 (2007) 北上高地のイヌワシ *Aquila chrysaetos* と林業 . 日鳥学誌 56: 1-8

小林 昭裕, “大雪山国立公園の登山道の生態的インパクトに対する利用者の評価に関する基礎的研究” : ランドスケープ研究, Vol. 68 No. 5, 737-742, (2005)

Yamaura Y., Amano T., Mitsuda Y., Taki H. and Okabe K 2009: Does land-use change affect biodiversity dynamics at macroecological scale? A case study of birds over the past 20 years in Japan, *Animal Conservation*, 12, 110-119.

森林における生物多様性保全の推進方策検討会 2009 森林における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進方策

Shigeo KOBAYASHI and Yuzo FUJIMAKI 1985 Breeding Bird Communities in a Deciduous Broad-leaved Wood and a Larch Plantation *Japanese Journal of Ornithology* 34 57-63.

第III章 第2節 農地生態系の評価

藤岡正博 1998 サギが警告する田んぼの危機. 「水辺環境の保全—生物群集の視点から—」(江崎保男・田中哲夫編). pp35-51 朝倉書店 東京.

松井 明, 佐藤 政良 (2006) 水田小排水路における水路構造が水生生物に及ぼす影響 . 応用生態工学 9: 191-201

嶺田 拓也, 石田 憲治, “希少な沈水植物の保全における小規模なため池の役割” : ランドスケープ研究, Vol. 69 No. 5, 577-580, (2006) .

中曾根 英雄, 山下 泉, 黒田 久雄, 加藤 亮, (2000) 茶園地帯の過剰窒素施肥がため池の水質に及ぼす影響 , 水環境学会誌, 23, 374-377 .

茨城県下館市の水田圃場整備によって造成された排水路系における水生生物の分布
日鷹 一雅 1998 水田における生物多様性保全と環境修復型農法 日本生態学会誌 48

167-178

角野 康郎 (2007): 達古武沼における過去 30 年間の水生植物相の変遷 . 陸水学雑誌, 68: 105-108 .

嶺田 拓也, 石田 憲治, “希少な沈水植物の保全における小規模なため池の役割” : ランドスケープ研究, Vol. 69 No. 5, 577-580, (2006) .

鷺谷いづみ 1998 保全生態学からみたセイヨウオオマルハナバチの侵入問題 日本生態学会誌 48 73-78

秋篠宮文仁・小宮輝之, 2009 : 日本の家畜・家禽, 株式会社学習研究社, pp270

渡辺恵三・中村太士・加村邦茂・山田浩之・渡邊康玄・土屋進 2001 河川改修が低生魚類の分布と生息環境に及ぼす影響 応用生態工学会誌 4: 133-146.

斉藤憲治・片野修・小泉顕雄 1998 淡水魚の水田周辺における一時的な水域への侵入と産卵 日本生態学会誌 38 : 35-47.

水谷正一 2000 ドジョウの水田への遡上「農村と環境 16」(農村環境整備センター編). 70-76

鈴木正貴・水谷正一・後藤章 2001 水田水域における淡水魚の双方向移動を保証する小規模魚道の試作と実験 応用生態工学会誌 4 : 163-177.

宮田 浩, 國本 昌宏, 井上 幹生 (2007) 溜め池周辺水域におけるオオクチバスとブルーギルの分布および個体数変動 . 応用生態工学 10: 117-129 .

第 III 章 第 4 節 陸水生態系の評価

中村 隆俊, 山田 浩之, 仲川 泰則, 笠井 由紀, 中村 太士, 渡辺 綱男 (2004) 自然再生事業区域鉦路湿原広里地区における湿原環境の実態 : -植生と環境の対応関係からみた攪乱の影響評価- . 応用生態工学 7: 53-64 .

山田 浩之, 中村 隆俊, 仲川 泰則, 神谷 雄一郎, 中村 太士, 渡辺 綱男 (2004) 自然再生事業区域鉦路湿原広里地区における湿原環境の実態 : -酪農草地化および河川改修が湿原地下水環境に及ぼす影響- . 応用生態工学 7: 37-51 .

滋賀県 2008 農村地域の良好な水循環を目指して -農業排水対策啓発資料集-
井上幹生・中野繁. 1994. 小河川の物理的環境構造と魚類の微生息場所. 日本生態学会誌 44: 151-160.

萱場祐一. 2003. 自然共生研究センターの取り組み-河川におけるハビタットの保全と復元-. 応用生態工学会誌. 5: 257 - 263.

環境省 2006

環境省 2007

森 誠一, 1999, ダムと魚類. 森 誠一編著, 淡水生物の保全生態学-復元生態学に向けて-, 信山社サイテック, 東京, 86-192.

加藤文男, 2005, 九頭竜川水系上流域におけるダム敷設後の魚類相の変化. 福井市自然史

博物館研究報告 第 52 号 : 83-98

角野康郎・中村俊之・渡辺恭子・植田邦彦 1992 釧路湿原 3 湖沼の水生植物の現状.植物地理・分類研究 40 41-46.

若菜勇 1999 マリモの研究の 1 世紀一見えてきた保全一 遺産 53: 59-64.

羽山伸一 2002 カワウにおける保護管理の考え方 日本鳥学会誌 51 56-61.

環境省 2004 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ編).環境省 東京

村中孝司・鷺谷いづみ 2001 鬼怒川砂礫質河原の植生と外来植物の侵入 応用生態工学会誌 4 : 121-132.

宮脇成生・鷺谷いづみ 2004 生物多様性保全のための河川における侵略的外来植物の管理 応用生態工学会誌 6 195-2004

宮脇成生・鷺谷いづみ. 1996. 土壌シードバンクを考慮した個体群動態モデルと侵入植物オオバタクサの駆除効果の予測. 保全生態学研究 1: 25-47.

山下博由 2000 海岸生態系研究におけるアマチュアリズムと保全活動一気象貝類を例として一応用生態工学会誌 3: 45-63.

渡辺恵三・中村太士・加村邦茂・山田浩之・渡邊康玄・土屋進 2001 河川改修が低生魚類の分布と生息環境に及ぼす影響 応用生態工学会誌 4: 133-146.

山内克典 2002 長良川河口堰が長良川下流域の低質および二枚貝に与えた影響 応用生態工学会誌 5 53-71.

Nakamura F., Sudo T, Kameyama S. & Jitsu M. (1997a) Influences of channelization on discharge of suspended sediment and wetland vegetation in Kushiro Marsh, northern Japan. *Geomorphology* 18: 279-289."

Kameyama S., Yamagata Y., Nakamura F. & Kaneko M. (2001) Development of WTI and turbidity estimation model using SMA Application to Kushiro Mire, eastern Hokkaido, Japan *Remote Sensing of Environment* 77: 1-9."

中村 太士 (2007): 釧路湿原達古武沼の自然再生に向けて . 陸水学雑誌, 68: 61-63 .

第 III 章 第 5 節 沿岸・海洋生態系の評価

Beck, M. W., Heck, K. L. Jr. , Able, K. W., Childers, D. L., Eggleston, D. B., Gillanders, B. M., Halpern, B., Hays, C. G., Hoshino, K., Minello, T. J., Orth, R. J. Sheridan, P. F., Weinstein, M. P. 2003. The role of nearshore ecosystems as fish and shellfish nurseries. *Issues in Ecology* 11:1-12.

田所和明, 杉本隆成, 岸道郎, 2008:海洋生態系に対する地球温暖化の影響, 海の研究 17(6), 404-420.

鳥居謙一・加藤史訓・宇多高明 2000 生態系保全の観点から見た海岸事業の現状と今後の展開. 応用生態工学会誌 3: 29-36.

須田有輔. 2002. 砂浜の生態と保全, pp.108-129. 早川康博・安田秀一編. 水産環境の科

学. 成山堂書店, 180pp.

蔣勤・福濱方哉・加藤史訓, 2006: 砂浜海岸生態系の環境影響評価に関する基本的な検討, 海岸工学論文集, 53, 1111~1115.

加藤真, 2006: 地球環境 11(2), 149-160, 干潟と堆たいがはぐくむ内海の生態系.

独立行政法人産業技術総合研究所, 2003: 海洋資源環境研究部門年報平成 15 年度版, 海洋資源環境研究部報告第 7 号.

http://unit.aist.go.jp/shikoku/kaiyou/mre/l_jp/u/group/rg08out.html

鈴木 輝明, 2006: 干潟域の物質循環と水質浄化機能, 地球環境, 11(2)161-171. "

Tatiana Pires Teixeiraa, Leonardo Mitrano Nevesa and Francisco Gerson Araújo, 2009: Effects of a nuclear power plant thermal discharge on habitat complexity and fish community structure in Ilha Grande Bay, Brazil, Marine Environmental Research, 68(4), 188-195.

Lardicci, C., F. Rossi and F. Maltagliati, 1999: Detection of Thermal Pollution: Variability of Benthic Communities at Two Different Spatial Scales in an Area Influenced by a Coastal Power Station, Marine Pollution Bulletin, 38(4), 296-303.

内田至 (1986) 海ガメ学ノート③離岸堤の構築と海ガメの産卵上陸生態の変化. 海洋と生物 8 (3) : 217-219

第 III 章 第 6 節 島嶼生態系の評価

環境省, 2002: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 (哺乳類).

環境庁, 2002: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2 (鳥類).

環境省, 2002: 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 (哺乳類).

安村茂樹, 前川聡, 佐藤哲, 2004: 沖縄県石垣島白保サンゴ礁海域における赤土堆積量の時空間的分布について, 保全生態学研究 9 (2), 117-126.

大垣 俊一, 野池 元基, 1992: 沖縄県石垣島の土地改良事業と白保のサンゴ礁, 日本生態学会誌, 42(1), 9-20.

小高 信彦, 久高 将和, 嵩原 建二, 佐藤 大樹, 2009: 沖縄島北部やんばる地域における森林性動物の地上利用パターンとジャワマングース *Herpestes javanicus* の侵入に対する脆弱性について, 日本鳥学会誌 58 (1) 28-45.

城ヶ原, 貴通小倉, 剛佐々木, 健志嵩原, 建二川島, 由次, 2003: 沖縄島北部やんばる地域の林道と集落におけるネコ (*Felis catus*) の食性および在来種への影響, 哺乳類科学, 43 (1), 29-37.

Yuya Watari, Seiki Takatsuki and Tadashi Miyashita, 2008: Effects of exotic mongoose (*Herpestes javanicus*) on the native fauna of Amami-Oshima Island, southern

Japan, estimated by distribution patterns along the historical gradient of mongoose invasion, *Biological Invasions*:10 (1) ,7-17.

堀越 和夫・鈴木 創・佐々木 哲朗・千葉 勇人, 2009 : 外来哺乳類による海鳥類への被害状況 (小笠原における外来種対策とその生態系影響), *地球環境*, 14(1), pp.103-105.

常田 邦彦. 2006:小笠原のノヤギ排除の成功例と今後の課題 . *哺乳類科学*, 46: 93-94 .

岡本ほか, 2007:石西礁湖におけるサンゴ白化時の温度環境について水産海洋研究 , 71(2) , 112-121.